

理研会報

発行日：平成29年9月20日
号数：No.388
発行：印旛地区教育研究会理科研究部
HP：http://rikainba.com
メール：rikainba@yahoo.co.jp



去る8月23日(水)、第67次印教研集会理科研究部会が開催されました。小学校部会は成田国際高等学校、中学校部会は成田小学校を会場とし、それぞれ5つの部会から貴重な提案をいただきました。そして、北総教育事務所指導主事 山下 博樹先生、千葉県立東部図書館 図書館連携課長 大三川 弘先生より、各提案について丁寧にご助言をいただきました。選考の結果、小学校部会は昨年に引き続き5部会、中学校部会は1部会が県教研へ進むことになりました。

近年、若い先生方が発表者になる部会が増え、ベテランの先生方が質問をしたり、助言をしたりしている場面が多く見られます。今年もその様な傾向が見られました。多くの先生方に発言していただくと討議がより内容の濃い充実したものになると思います。

助言者の先生方、提案された各部会の先生方、司会、記録、受付補助等でご協力をいただきました先生方に、心より御礼申し上げます。



☆ 参観された先生方から ☆ (敬称略)

四街道市立山梨小学校 戸田 大輔

理科は感動のある教科だと思って、日々指導しています。今年度の研究集会で最も感動したのは、三部会が提案した『太陽の光について調べよう』(3年)の授業実践です。光の進み方の学習では、小さな鏡を集めて大きな鏡を作り、ダイナミックな光の道を見ることができました。光を集める学習では、サーモシートを使って、視覚的に温度変化をわかりやすくしていました。発展学習では、段ボールとアルミホイルを使って、ソーラークッカーを作り、焼き芋を作ったり、水を温めたりしていました。どの学習活動も、理科室や身の回りにある物をちょっと工夫するだけで、児童に感動を与える物になり得ることに、大変感心し、ぜひ追試してみたいと思いました。

一方で、問題解決の能力を育てていく実践はまだまだハードルが高く、児童の意欲を損なわずに論理的な



思考力を育てることの難しさを感じました。また、主体的に学習するというのはどうい

う児童の姿なのか、ということについても、深く考えさせられました。

研究集会は、他校、他部会の実践を見て、さらに良い実践を考えていくよい機会となっています。各部会の提案を自校でどう生かしていくか、考える楽しみが増えました。

成田市立公津の杜小学校 須藤 寛

新学習指導要領の実施に向けて、「主体的・対話的・深い学び」に向けて授業改善をしていく必要があると言われていています。しかし、なかなかできていない現状があります。そこで、具体的にどうすればよいかに注目しながら、聞かせていただきました。

1部会の発表を聞いて、「見える化」(可視化)することで主体的な学びにつなげる大切さを学びました。

普段授業をしていて、児童は夢中で実験に取り組んでいますが、内容を理解していないことがよくあります。それには、2部会で提案していた仮説を立て、見通しをもった実験をさせることが大切だと感じました。

3部会の発表を聞いて、「具体的な体験活動」を重視することの大切さを改めて感じさせられました。体験活動は、児童の主体的な活動につながり、実感を伴

った理解を得る機会となります。

4部会の発表では、児童の実態を知る大切さを感じさせられました。児童の興味・関心が低い学習を把握し、多角的なアプローチを試みて児童の満足度を上げていました。

5部会が提案していた「結論をより確かなものとして捉えなおす活動」も効果的だと感じました。観察・実験をしたことを、再構築して考えを深めさせることで、実験結果をしっかりとらえさせ、深い学びにつなげることができるからです。

今回、各部会の発表を聞き、授業改善をしていく際の具体策をつかむことができました。これをもとに、授業改善を行い、児童が輝く授業を実践していきたいと思ひます。

佐倉市立南部中学校 宇野 奈緒美



毎年、印旛地区教育研究集会に参加する度に、授業で活かせるたくさんアイデアを頂いています。

今年度の研究主題に「目的意識をもたせる」「自ら問題を解決する力」「進んで問題解決をする力」「より主体的な学習活動」というキーワードが入っています。研究内容は違いますが、「教師が主役」ではなく、「生徒が主役」になるためにどんな手立て・工夫をしたらよいか、ということが現在の理科教育に大切なことの一つであることがわかりました。生徒が主役の授業を行うためには、そのための時間が必要です。現実問題、授業時数が足りないから・・・という理由で教師主導の授業が多くなることがあります。教科書の内容を終わらせつつ、「生徒が主役」の授業を増やしていくためには、時間短縮する内容と時間をかける内容を考えながら、1年間の指導計画を立てることも必要であると思ひました。

これから、学習指導要領が改定されます。学習する内容の順番が変わったり、評価の観点が変わったりと不安な面もあります。常に新しい情報を得て、今の自分に満足せず、成長し続けるように精進していきたいと思ひます。

八街市立八街南中学校 山崎 一恵

夏休み終盤に5つの部会の先生方の研究の発表を聞き、先生方の熱意ある実践に触れ、有意義な時間を過ごすことができました。

この発表までに、各部会で発表者の先生方を中心に協議を重ね、その中で様々な意見を議論されたことと思ひます。このような機会を持つことによって日々の授業を見直していくきっかけとなりました。

また、小中の連携を通じ連続した指導によって、児童生徒の科学的理解や思考が深まっていくのではと思ひました。

今回の発表では、導入の大切さや4Q Sを用いた仮説の指導、言語活動の全体から個の指導、3ライズの問題解決学習、考察での主体性を引き出す支援など様々な角度から生徒のやる気や好奇心が引き出され、子どもたち自身が学習を自ら進めていく授業をつかっていくためのヒントを提案していただきました。また、助言者の先生や質疑の中で、現代ではITや学校図書館で多くの情報を得ることができ、その利用や活用を図らなければならないこと、多くの情報がある一方その正確さ、新しさについて確認することの大切さ、自分の考えと資料と区別することなど、これからの理科の授業での情報の取り扱いの大切さも教えていただきました。2学期からの授業に活かしていきたいと思ひます。



ベテランの先生方からも積極的に発言をいただきました。今回右の写真に掲載させていただいたのは山田長雄先生と鈴木浩先生です。後輩への貴重なアドバイスありがとうございました。



新学習指導要領にも目を向け、提案からの学びが多く、今後の授業改善につながる研修会になったようです。ご感想をお寄せいただいた4名の先生方、ありがとうございました。

